



新しく生まれ変わる「大川家具 秋の見本市」のご案内

International Asian Furniture Exhibition
OOKAWA The Future Furniture
in Fukuoka 2006 大川家具—秋の展示会 Vol.1 **Moisture**

家具業界の皆様には毎回好評を頂いておりました「大川家具 秋の見本市」が、このたびはじめて一般のお客様にもご覧いただける見本市として生まれ変わります。

タイトルも「OOKAWA The Future Furniture」と一新、アジアとのコラボレーションや環境プロジェクトの取組など、新しい試みを随所に取り入れ、世界に誇れる物づくりの産地・大川として生まれ変わることを目指しています。

商談日	平成18年10月18日(水)～21日(土)
(一般公開日)	平成18年10月20日(金)～21日(土)
会場時間	9:00～17:00 ※18日のみ18:00まで
会場	第一会場 大川産業会館 特設会場 大川市文化センター 第二会場 大川家具工業団地(協) 第三会場 (協) インテリアポート

主催	(協) 大川家具工業会
後援	福岡県・大川市・大川商工会議所
事務局	(協) 大川家具工業会 福岡県大川市大字酒見 221-3 TEL 0944-87-2090 / FAX 0944-88-2004 URL http://www.okawa.or.jp/ E-mail info@okawa.or.jp/

はじめての一般公開の見本市です。

現在、(協)大川家具工業会のエキシビションは年間4回開催していますが、全国家具ショッ
プなどを中心とした業界だけの見本市でした。今回からは、新しい数々の取組みを行って
いる大川の新しい姿を、より多くの方に実感いただくために、はじめての一般公開といた
します。

アジアとのコラボレーションを展開します。

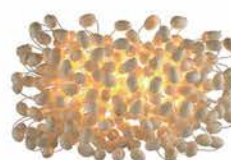
九州は古来から東南アジアの入口で、文化交流の窓口でした。「梅雨」というシーズン
を持つ気候風土は、東南アジアに近く、いわば「湿地帯文化」という共通点を持っています。
今回のエキシビションでは「湿地帯文化のリラクゼーション」をテーマにアジアとコラボ
レーションした快適空間をプレゼンテーションします。

「タイのアジアン・リゾートホテル」スタイル空間。

テーマブースとして4つのホテルスタイルを提案します。そのうちの一つがタイの建築
デザイナーサムチャイ氏コーディネートによるホテル・スタイル。他にも空間プロデュー
サー瀧勝巳氏、建築家井手健一郎氏によるホテルスタイル。近藤康夫氏・小泉誠氏プロ
デュースによる「SAJICA」ブース。各氏と大川の家具メーカーとのコラボレーションに
より「大川」の新しい可能性をご覧ください。

ブランド OCTO(オクト) が来日します。

2006 年度は、この秋に NY でも発表されるタイのトップメーカー 8 社からなるブランド OCTO(オクト) より、ヨタカ、プラネット、アング、アユダヤの 8 社が日本向けバージョンとして “SECOND SIGHT(千里眼)” というコンセプトで来日します。



大川の環境型生産モデルへの挑戦を宣言します。

2007 年より予定している「環境プログラム」の導入、「持続可能な物づくりの産地」の標榜を、今回の展示会から宣言します。

FUTURE FOREST インスタレーション

大川が誇る家具作家 西田正義氏と国内外で活躍するアーティスト明鏡止水とのインスタレーションを行います。それにより、来年度から発足する「持続可能なモノ作りの産地」宣言に向けたメッセージ空間を演出します。また、来場した方々全員が、主体的に社会貢献に参加できる全く新しいインスタレーションをお楽しみください。



九州各地の「食と酒」も紹介。九州の物産展示会としての魅力も。

九州といえば、やっぱりお酒です。今回の展示会は、九州各地の酒造メーカー、食品メーカー、タイのメーカーの方々より応援をいただいています。これらをワンコイン（任意）でお楽しみいただけます。

フューチャーコインプロジェクト

「フューチャーコインプロジェクト」として、「九州各地の食と酒、タイからの協賛品などの協賛プログラム」、「FUTURE FOREST インスタレーション」での収益は、環境保全を中心とした社会問題解決、温暖化の抑止など持続的な社会作りのために有効利用します。今回は具体的なプログラムとして、筑後川流域の森の再生活動とタイへの植林活動を予定しております。

このプログラムの結果は、2007年度の活動報告によって情報公開されます。

オープン懸賞として「アジアン・リゾートホテル」インテリアプレゼント

さらに新しく生まれ変わるエキシビジョンを記念して、テーマブースでプレゼンテーションしているタイ・サムチャイ氏コーディネートによる「アジアン・リゾートホテル」で使用しているインテリア一式を抽選で1名様にプレゼントいたします。

また、来場の中から抽選で100名様にインテリア小物をプレゼントいたします。応募方法/官製はがき、お名前、ご住所、連絡先、「アジアン・リゾートホテル」インテリア希望と明記の上、下記宛先までお送りください。当選者には直接ご連絡いたします。宛先/(協)大川家具工業会 福岡県大川市酒見早馬221-3 「アジアン・リゾートホテル」係

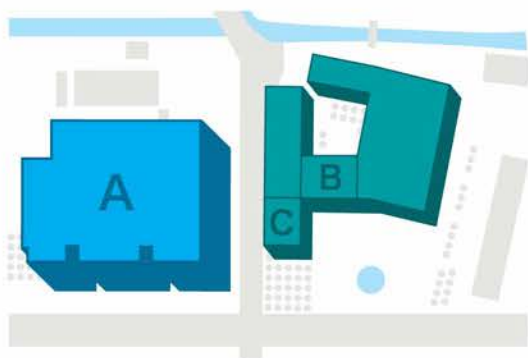




会場も大きく広がります

大川産業会館は 1 フロア増えて3フロアーに。これまでと同じく大川メーカーの展示会もご覧いただけます。おとなりの大川市文化センターでは、カフェやパーティースペース、エキシビジョンスペースなども初登場です。

第一会場／大川産業会館
 特別会場／大川市文化センター
 第二会場／大川家具工業団地（協）
 第三会場／（協）インテリアポート



3F ホテルスタイル"暗"/リラクゼーションスペース+レストラン
 2F 華胥の夢博/大川スタイル
 1F インターナショナルエキシビジョン/大川スタイル



1F ホテルスタイル"明"ガーデンパーティースペース
 1F FUTURE FORESTインスタレーション



大川家具 470 年の歴史

福岡県大川市は、室町時代からの歴史のなかで、船大工から指物へ、指物から箱物へと伝統産業、伝統技術を持ち、常に時代に合わせながら現在でも日本一の家具の生産高を誇る地域です。デザインに関しても、昭和 30 年に河内諒が発表した”引き手無し箆笥”は、洗練されたデザインで日本中の人気を集め、日本の家具の歴史を塗り替えたものでした。近年は、量産家具の製造会社が多く、ありとあらゆる製造が中心で建具や床材、壁材等の住宅資材、化粧合板突板加工、板硝子、家具金物、木工機械、刃物研磨、塗装業などの関連産業や、家具卸、小売、輸送システムまで、家具、インテリア産業に係る産業を集積した世界でもまれな産地を形成しています。私たちは、先人達が汗と努力で築いてきた 470 年余の伝統と文化を継承しつつ、環境に優しい快適な生活空間の提案に取り組んでいきます。



榎津久米之助

今も変わらぬ大川の匠

約 470 年前の室町時代に榎津久米之助（えのきづ くめのすけ）によって当時盛んであった船大工の技術を活かして指物がはじまり、現在の大川家具の基礎を作ったのは、江戸時代後期に細工技法を伝えた田ノ上嘉作といわれています。

今回のプロジェクトのサポート

このプロジェクトは、イナ・デザインコンサルティングシステムズが、プロデュース/サポートしています。

リニューアルサポートのメンバー紹介

□瀧 勝巳 (タキ カツミ) 空間プロデューサー

25歳からインテリア業界へ。当時在籍したショップにて早くも地方のレベルを超える斬新なコーディネートで全国から注目をあびる。1999年独立。“日本の空間を活かす世界の家具”をコンセプトに「SHOP-aula」を滋賀県近江八幡市に開業。地方家具屋の枠を越えた驚異的な売り上げで国内外の家具関係者に広く名前を知られるとともに、独自のVMDが他のインテリアショップに高い支持をうけ、国内10店舗近くのインテリアショップの開業・リニューアルなどもプロデュースしている。なかでも、2004年から就任した表参道の「ラコンヌ」においては、「日本人の美意識」をテーマに、新たなセレクトショップを表現。海外のメーカーからもその存在は、一目置かれる事となる。「ショップ第一主義」を提言し小規模のショップやメーカーが大資本に負けないシステムを構築。このような活動を支持するショップやメーカー、デザイナーと共に商品の開発や仕入れを行う「クラブ州」を2004年に設立。2005年には、メイドインジャパンプロジェクトを立ち上げ、総合プロデューサーとして着任。2006年からは、東京より滋賀のaulaに再び拠点を戻し、住宅や店舗の設計施工など家具の販売だけにとどまらない、より広い視野で空間全体をプロデュースしている。

□ハミル・アキ プロジェクトデザイナー/クリエイティブディレクター

1988年より書画家として活動を始め、96年にポルドーの出資者による出版物の制作の為に来仏。帰国後の98年から、自身の作家活動の他に、出版から商業施設のネーミング、ロゴ、アートディレクション、ブランディング、商品開発などを多数手がける。手がける作品は、ディレクション/アート共に、アメリカやイギリスなどの多くのアワードを受賞。商業施設では、大阪梅田の“E'ma”や、ブランドでは、銀座あけぼのや備長炭専門店銀座掌など。その他、サントリー/ナチュラルハウスなどのパッケージデザインや広告など、日本をテーマにした開発が多く、国内外で支持される日本ブランドの立ち上げやリニューアルのディレクションに多く携わっている。

□松田 創 (マツダ ハジメ) ソーシャルデザイナー/環境アドバイザー/クリエイティブディレクター

1990年、デザイナーとしての活動を開始。広告を中心に、平面から立体までの多岐にわたる仕事を手掛ける。1998年、経済活動中心のクリエイションから、『明鏡止水』として、コマーシャルイズムとは一線を画した作家活動を開始。“日本文化と自然”をテーマに日本各地を巡り、各地の活動家、職人、学者、企業との共有プロジェクトによる作品を発表。それらの作品は、国内を中心に、世界7カ国において紹介/招待/展示されている。また、多くのメディアにおいて紹介され、若者を中心とした幅広い層に根強い支持を得ている。これらの活動の過程において、文化、経済、若者の意識、日本各地の山や森を巡るフィールドワークから、日本がかかえる様々な問題に直面する。これに対し2005年「イナ・デザインコンサルティングシステムズ」を設立。同年、CSPプロジェクトを開始。現在、ソーシャルデザイナーとして、地域産業の循環型システムデザインを中心に、社会貢献型事業/環境修復事業などの立ち上げなど、さまざまなプロジェクトを展開している。また、環境アドバイザー/クリエイティブディレクターとして、環境対応型事業へ移行を考えている企業への制作環境のシステムデザインや生産管理のディレクション、CSR部署の立ち上げや連携サポート、環境対応型製品の開発、また、それらにともなう制作物全般の企画/制作を、さまざまな企業と進めている。